

## (1) 現状

### ① 新たな施設の整備に伴う移動需要が発生

須頃地区（燕三条駅周辺）

- ・ 三条市立大学の開学（R3年4月）
- ・ 県央基幹病院の開設（R5年度）等

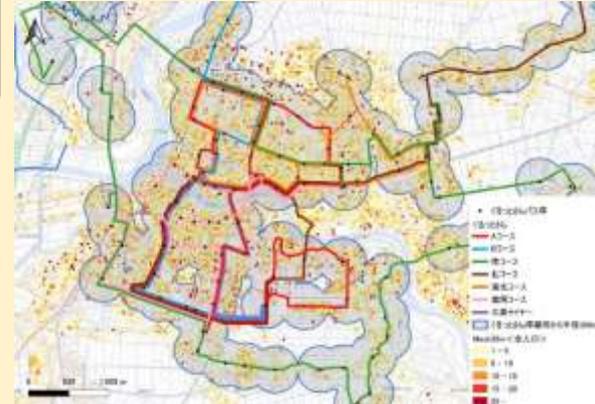
まちなか（北三条駅周辺）

- ・ 図書館等複合施設「まちなか」のオープン（R4年7月）

市学生まちなか居住促進事業補助金対象エリア



### ② バス路線の重複等による非効率な運行



- 乗車実績が少ない路線がある（空気バス問題）
- 本町周辺や嵐南の一部で路線が重複している

## (2) 課題

- まちなかに居住している学生の大学への移動手段の充実
- 自家用車を持たない学生等のまちなかへの移動手段の充実

## (3) 路線別の検討内容

- 一定の移動需要が見込める場合、バスで対応することが適切（安価、予約不要、大人数） ⇒ **新規路線の検討**
- 路線の新設に当たっては、車両及び運転手の確保、調整が必要 ⇒ **既存の循環バス路線の見直しを検討**

路線	検討の方向性	変更内容・見直しの視点	変更時期	備考（補助金等）
【変更】三高ライナー → 三高・県央工業ライナー	県央工業高校側の停留所を追加、夕方便新設	高校生の移動需要に対応（資料No.2のとおり）	令和4年4月～	非補助路線のため4月から実施
【新設】燕三条駅周辺とまちなかを結び路線	まちなか～大学の移動手段の確保 ⇒ ・ まちなかに居住する学生の増加 ・ まちなか活性化	・ 大学及び専門学校の授業時間に対応 ・ これまで付近を通っていなかった北三条駅（まちなか）周辺を經由	令和4年10月～（予定）	10月前の変更は既存の路線に係るフィーダー系補助金を返還するため、交通開始年度の10月から実施できるよう検討
【既存の見直し】Aコース、Bコース 北コース、南コース 嵐南コース、嵐北コース	利用実績及び他路線との重複等を勘案し、便数・ルートの変更を検討	・ JRダイヤとの接続を意識 ・ 新保裏館線等新規のルート設定による時間短縮 ・ 需要に応じた増減便 ・ 代替便による廃止 等		



今回協議事項

適切な時期に改めて協議会で協議予定



- (1) 考え方
- ・コロナ禍により、全体的に公共交通の利用者は減少傾向が続く。
  - ・免許を保有している高齢者層の増加などにより、そもそもの利用ニーズが将来にわたって減少が続くと想定

**地域公共交通は、住民生活や持続可能な地域づくりにおいて重要な役割を担っている**

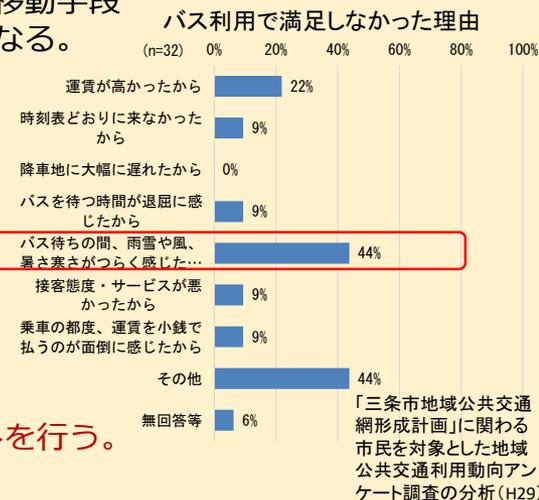
役割

- ① 自動車を持たない高齢者や学生等の交通弱者にとって、暮らしを支える、大切な移動手段
- ② 地域公共交通の結節点には人が集まり、人と人の交流やコミュニティを育む場となる。
- ③ 環境に優しく、交通渋滞を緩和できる。

**公共交通の維持・強化のために、一定程度の行政負担は必要**

公共交通の維持・強化に向け、次の取組が必要

- ① 今よりも効率性、利便性を上げ、既存の利用者を離さない。
- ② 学生など新たに公共交通を利用する層のニーズを満たし、利用者の増加を図る。



利用者に継続して公共交通を利用していただくために、既存サービスの改善、アップデートを行う。

## (2) 取組の方向性

- 循環バスの新設、統廃合
- バスの魅力、快適性の向上

**【方向性】 デマンド交通に比べ低料金なため、主なターゲットを学生に設定**

- ・朝夕の通学、通勤の時間帯を中心に、実績や需要に応じ運行することとし、よりわかりやすく、利用しやすい路線に統廃合を図る。
- ・バスを利用しやすい環境を整備し、利用者の利便性・満足度を向上させる。

## (3) 施策

効率的かつ有効な手段・方法を検討し、改めて協議会で協議のうえ、令和4年度に実施

No.	想定される事業	内容	主な効果	時期
1	キャッシュレス化	安価なコストでの決済システムの導入	乗降実績の把握、利便性向上	適宜
2	オープンデータ化	グーグルマップ上での時刻表、停留所検索を可能に	利便性向上、新規需要へ対応	路線変更とともに
3	待合場所の整備	・デジタル時刻表の設置 ・広告付き待合環境の整備の推進	快適性向上	未定
4	イメージアップ	親しみやすいロゴやデザインへ統一	満足度向上、新規需要へ対応	未定
5	バスロケシステム	ネット上でバスの位置を把握できる	利便性向上、新規需要へ対応	未定

